

令和7年度 第2回 弱視教育指導者研修会 報告

午前中の視覚障害研修講座に続き、京都府立盲学校を会場として、午後は府内の視覚障害のある児童生徒に関わる教員を対象に、研修会を行いました。京都府全域から弱視学級担任・通級指導教室担当者 計14名の参加がありました。視覚障害のある児童生徒は少数で、関係者が顔をあわせる機会がほとんどない中、多くの方に集まっていただくことができました。共通のテーマについて意見を交わしたり、日々の指導についての悩みや実践を交流したりし、帝京平成大学 教授 田中 良広 氏に指導助言をいただきました。

概要

- 1 テーマ 「発達段階に応じた自己理解と発信力を育てるために」
- 2 日 時 令和7年8月6日(水) 13:30~16:00
- 3 対 象 府内の視覚障害及び見えにくさのある児童生徒に関わる指導者 等
- 4 助言者 帝京平成大学 教授 田中 良広 氏
- 5 形 態 会場集合開催
- 6 会 場 京都府立盲学校 花ノ坊校地 会議室
- 7 内 容 ①ワーク(話題提供、意見交流) ②指導助言 ③情報交流

『ワーク』では、架空の高校生の事例をもとに、2つのグループに分かれて小学校低学年、高学年、中学校などの発達段階でつけておきたい「自己理解」や「発信」にかかわる力について参加者同士で意見を交流しました。

例えば、支援依頼の仕方について、少し先の将来像を描きながら、それぞれの段階でどんな力をつけていてほしいのか、活発に意見が交わされました。指導助言者の田中氏からは、担当している児童生徒の眼疾患を正しく理解することの重要性や、環境設定や見やすい条件をいかに整えるかの大切さ、児童生徒が将来の夢や目標をもつことで意欲をもって取り組んでいけることなどのお話がありました。

『情報交流』では、自立活動の内容について、生活の中でのつまずきへの取組や手指を使った活動、補助具の練習などの様子を交流しました。



参加者アンケートより(一部抜粋)

- ・高校生の時にどんな姿になってほしいかを考えることで、低学年、高学年、中学校で身に付けさせたい力がはっきり見えてきた。2学期からの指導に生かせたと思う。
- ・広い地域の先生方と話す機会が持て、それぞれ悩んでいることを共有でき、力になった。
- ・田中先生の助言で、「自分から情報を取りに行く姿勢が大切」「将来の夢など、明確な目標を持つ」等のお話が勉強になった。熱い志をもって今後の支援に生かしたい。